

第5 A分科会 研究課題「教職員の専門性に関する課題」

研究主題 「ICTの活用を通じた、専門性向上に関わる教頭としての手立て」

東児湯支会 新富町立新田中学校 長友 智子

1 主題設定の理由

令和3年1月、中教審による『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」が提唱された。その中の「2020年代を通じて実現すべき『令和の日本型教育』の姿」として「個別最適な学び」や「協働的な学び」の重要性が述べられている。それらの「学び」でICTの活用が推進された。ICTをツールとして活用することにより、指導方法や指導体制の工夫改善を行い、「個に応じた指導」の充実を図ることが求められている。

現在、学校現場では様々な取組や改革が行われている。日々の業務に加えての取組や改革は教職員への大きな負担となりにかねない。しかし、ICT活用が教師の負担軽減にもつながると考えられている。

そんな中、新富町は令和3年度から教師のICT活用技術向上に力を入れるべく、早い段階でタブレット等の導入や教職員向けの研修を行ってきている。それらの研修を通して、タブレットそのものに目を奪われるのではなく、授業改善の一つのツールとしての活用が職員の専門性に欠かすことができなくなっていると考えた。

そこで、町が取り組んでいる研修や学校独自で研修や実践に取り組むことで、教職員の専門性の向上を図ることを目的とし、本主題を設定した。

2 研究のねらい

ICT活用に関し、教職員の専門性を高めていくために、教頭としてどのような手立てが効果的であるかを研究する。

3 研究の概要

(1) 研究仮説

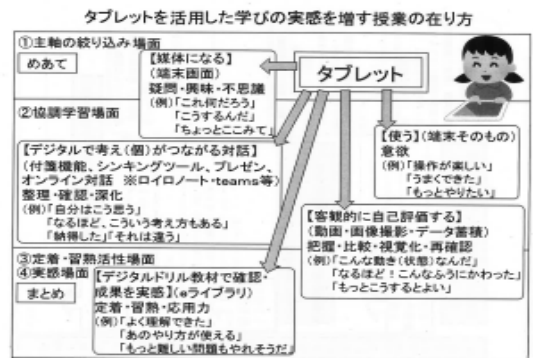
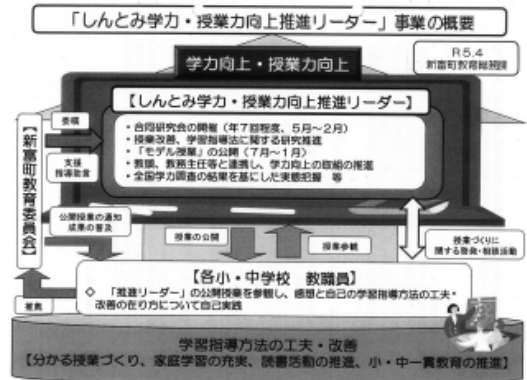
ICT活用に関する研修を通し、自分の授業改善を図ることで、より充実した授業構築を行うことができるであろう。

(2) 研究の実際

① 町主催「しんとみ学力・授業力向上推進リーダー研究会」

各学校より1名がこの会に参加し、新富スタイルの授業について研究する。

【新富町教育委員会から示された概要】



② 上新田学園

ア 「スキルアップ研修」

県の「教員のICT活用指導力の状況」から、研修受講率が高いのに対し、ICT活用指導力には個人差が大きく、効果が表れにくいのではないかと考えた。そこで、水曜日午後の職員研修時間に「スキルアップ研修」という個人研修の時間を設定することとした。

「スキルアップ研修」とは、教職員として自らの専門性と指導力を向上させる研修を指し、個人で様々なサイト等を活用して学習していくものである。

<利用したサイト>

文科省「YouTube公式チャンネル」

NITS「オンライン講座」

県教育研修センター「インターネットでe-研修」等

イ 保護者アプリ「sigfy」の導入
朝の欠席・遅刻に対する電話対応
やアンケート集計を行う。

③ 富田小学校

ア 情報教育推進部が中心となった、「授業におけるロイロノート活用に関する研修」の実施。

イ 授業研究会及び主題研究会での、「ロイロノート・シンキングツールを使用した協議」の実施。

④ 富田中学校

ア 県教育研修センターの「選択研修」の活用

⑤ 新田学園

ア 県教育研修センターの「選択研修」の活用

イ 「ロイロノートの活用に関する研修」

ウ 「主題研究」での取組

令和3年度から5年度まで3カ年計画で「ICTを活用した生徒の学力向上」を主題とし、職員の授業改善に取り組んだ。

授業構想メモ(学習指導過程)内に「ICT教育7つのチェックポイント」(1QR 2画像・動画 3デジタル 4 提出箱 5シンキングツール 6 探求活動 7オンライン)欄を作り、本時の授業で実施するポイントにチェックを入れ、参観者の視点とした。

参観者には参観シートにある3つの視点(協働的な学びを実現する授業づくりの視点、ICTの効果的な利活用、授業者の+1)に着目し、授業を参観してもらった。授業後には、参観者と授業者による事後研究会を実施し、全体で共有する時間を設定した。

エ 令和4年度「重点支援訪問」

年3回の訪問において、職員が必ず1回の指導を受けるよう授業日を設定し、全職員の授業力向上を図り、生徒の学力向上へとつなぐことを狙いとした。

オ Sway(microsoft)による動画提供
紙版の学級通信にSwayのQRコード添付し、授業や学級での活動の様子を動画で視聴できるようにした。

⑥ 町教頭会での情報共有

年6回の教頭会で互いの学校におけるI

CT活用に関する取組や成果、課題について情報提供を行った。

(3) 研究の成果

① 「スキルアップ研修」では、職員から次のような感想や意見が寄せられた。

ア 個人で取り組むことができるため、個人のスキルにあった研修を探して取り組むことができる。

イ 教材研究にも活用できた。

ウ 「スキルアップ研修内容」や「リンク集」が示されたので、自分で時間を見つけて学ぶことができた。

② 保護者アプリの導入で、朝の電話対応やアンケート集計に時間をとられなくなり、教員の多忙感改善につながっている。

③ 必要と思われるスキルの向上につながる「選択研修」への参加促しや、授業内容等に関するちょっとした会話で、研修意欲をかき立てられる職員が増えてきた。

④ 主題研究や重点支援訪問では教職員が意欲的に授業改善に取り組んだ。タブレットの活用を取り入れる際「こんなことをしてみたいが、ロイロノートでできるか」や「ここまではできたが、ここから先がうまくできない」と言った声が職員室内で聞こえ、声を拾った職員が数人で「これはこうすると良い」などと知恵を出し合ったり、アドバイスしたりする姿が見られた。また、授業参観後、自分の授業でのICT活用に実践として取り入れる姿も見られた。

4 今後の課題

① 「選択研修」を案内する際、育成指標について示すだけでなく、提示や言葉を取り上げて説明するなど、教職員に浸透させる工夫を教頭が丁寧に行う必要がある。

② 教職員が求めるICTに関する研修や、それに関わる情報等を教頭が広く収集し、提供できる体制を整える必要がある。

③ 教頭がスキルをもっていなくても、職員の能力を見極め、できる教職員にリーダーシップをとって研修してもらうことが、互いの専門性の向上につながると考える。そのためには、年度の早い時期に、職員が身に付けているスキルについてつかむ必要がある。